

## 編集後記

やはり異常気象のせいらしく、今年の夏は暑かったですね。こうした状況が今後も続くかと思うと、ちょっと気分がめいってしまいそうです。皆さんはいかがでしたか。

さて、**IAM e-Magazine** 第6号をお届けします。ちょっと長いのですが、今回もバラエティに富んだ、実に興味深い論考を揃えることができました。ここで、各論考についてあまり立ち入ったコメントをするより、皆さんに読んでいただくのが一番だと思いますが、それぞれ一言だけ加えておきましょう。

まず巻頭言では、途上国に進出する企業の社会的責任を問うています。つまり、進出する企業は現地の人々の雇用を奪わないよう、また新たな雇用を生み出すよう尽力することであり、単に金儲けだけを目的とするのではなく、現地の経済成長や現地の所得水準の向上に貢献することの重要性を指摘しています。

上原副代表には現地調査を基に、マレーシアのサラワク州を例にとった緊急時の食料体制について、実に興味深い論考を書いていただきました。3つ目は本研究所の長谷川代表によるインドネシア経済の現状と、

果たして持続的な成長ができるのか、その条件は十分備わっているのか、などについての分析です。今回は前半だけですが、次号で後半を掲載する予定です。

4本目は中国が抱える最大の問題の1つである格差問題を教育の格差から解明するもので、実に詳しく、本格的に分析した貴重な論文です。是非読んだ感想をお聞きたいと思います。

5つ目は南アフリカ共和国での滞在経験を懐かしく回想したもので、読んでいるものにいろいろな苦労の中で、思い出深い多くの体験をされたことがよくわかる回想記です。筆者は「何故か筆者を虜にさせる不思議な魅力をもつ異次元国家、南アフリカ」と呼んで、懐かしく体験談を語っています。

最後の「ニュースの裏を読む」では、今回は韓国の政治文化と地域対立を実証的に解明するという意欲的な文章です。単なる「ニュースの裏を読む」と言ったニュース性だけでなく、ちょっとした論文として読んでいただいても十分読み応えのある文章です。じっくり読んでいただくようお勧めしたいと思います (KN)。